

F-10 現代都市家族機能の実証的検討 (第1報) 家族機能調査法  
お茶大家政 中原 順子

**(目的)** 現代家族の機能は著しく縮小したと一般にはいわれているが、実証的研究はほとんど存在しない。そこで現代家族の機能の全体像をあるがままに実証的にとらえる目的で、機能数の面と各機能の量の面からの包括的測定を行なうこととし、ここでは生活時間調査法を用いた方法を基準設定を中心に報告する。このような一般的、客観的基準設定をすることにより、時代、地域、家族形態等の客観的比較も可能になるといえる。

**(方法)** 全日常活動を家族機能に対応させて配偶者活動、対子活動、家事活動、保健活動、嗜好活動、宗教活動、社会活動、経済活動の8大項目に分類した表を、家族機能の測定基準とする。表の作成過程では家族外機能集団を網羅していると考えられる職業分類表を参考にした。家族内自足度を表す家族内機能数調査と、補助者としてどの程度働いているかを示す主体者機能数調査も併用した。現代都市核家族が主対象であるが、比較のため農家核大家族も充分測定可能になるよう考慮した。

**(考察)** この表の特色は以下のような点にある。生産機能の主たる換金機能(収入を得る生活活動)を何種類のことを行なうていても1項目としてだけ計算し、自家用生産は家事活動にまわした点。家族全体の機能数を表すばかりでなく、各家族員の機能数と量を出し、この方に重点をおいている点。妻の担当することの多い項目を独立項目としたこともあって妻の担当機能数が大きく出る結果となる点。各項目の比重が同程度である点。一般の生活時間調査と異なり、家庭外で家族員が個人的に(家族を代表しての活動は除く)行なった生活活動時間は除外して集計する点である。